

何らかの形で実施することが義務付けられているが、現時点ではその結果の活用は教員に一任されている。

(点検・評価の結果)

授業アンケート、FD月間等の取り組みはあるが、調査結果の活用がほとんど行われておらず、参加者が少なく、課題の多い状況である。

(改善の具体的方策)

全学的には、2005年度より学生による授業評価が統一されたフォーマットによってすべての科目で実施された。評価結果とそれに対する教員のコメントはインターネットで学内に公開される予定で、これらの評価結果を活用して授業の改善に役立てていく。また、2005年度より学部にFD委員会が設置された。学生参加によるFDの全学的なシンポジウムの開催も予定しており、授業改善への気運が高まっている理工学部も、さらに進んだ取り組みについて検討していきたい。

#### 7.1.4.6 課程修了の認定

**【評価項目 6-6-2】 課程修了の認定（大学3年卒業の特例）**

（選択要素）3年卒業制度措置の運用の適切性

＜2003 年度に設定した目標＞

1. 柔軟で多様な認定システムの確立を目指し、ジョイント・ディグリー制度、三年卒業制度の導入を検討する。

(現状の説明)

2005年度に飛び級の実績（生命科学から1名）があるが、卒業ではなく退学して大学院へ進学する形をとっている。物理学科数学専攻でも現在学部の期間短縮を検討しているが、履修単位数制限を厳密に適用すると、3年間での卒業はむずかしい。

(点検・評価の結果)

飛び級して大学院進学する制度は生命科学科で導入されているが、まだ十分整備されたものになっていない。

(改善の具体的方策)

3年卒業制度を視野に入れて、成績優秀者に対して履修単位数制限を緩和する等の措置を検討していく。